

## COC ニュースレター

地域に根ざし、世界をみざす。—Center of Community—



## コロナ禍の中で見つけた地域連携のカタチ



千頭地域連携推進機構長

日本福祉大学は、これまで取り組んできた地域連携の取組の継続とさらなる発展に期すために「日本福祉大学地域連携ポリシー〔全学〕」とそれを基に各学部の特徴を生かした「日本福祉大学地域連携ポリシー〔学部〕」を策定し、地域連携の方針を明確にしました。

2020年度は、ポリシーに基づいて事業を行う初年度でしたが、本学もwithコロナ社会に適応する1年となりました。その中で地域のみなさんにお力添えをいただきながら、試行錯誤の中にさまざまな実践例を創りだすことができました。

また、自治体や企業、地域住民のみなさまからの温かいご支援は、これから社会を担っていく学生を大いに勇気づけるものでありました。この地域への感謝の気持ちは、きっと学生が社会人として活躍する地において、個々の実践に結実していくことでしょう。今後とも地域に根ざす大学として、地域課題と真摯に向き合いながら教育・研究を通じた人材養成を進めるとともに、グローバル化する世界の課題に対応すべくSDGsに沿って、持続可能な社会にむけた価値を地域のみなさまと共有してまいります。

## COCデイ「ふつうの・くらしの・しあわせ」をみつめるイチニチ

本学は、全学的に地域志向教育を推進し、持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成に取り組んでいます。「COCデイ」は、全学教育センター科目「知多半島のふくし」(担当：全学教育センター佐藤大介助教)の対面講義として実施しており、地域で課題解決に取り組むゲスト講師を迎え、地域の現状や課題に対する理解を深めます。2020年度は、経済学部とともにオンライン講演会を実施し、3キャンパスから学生522名が受講しました。

### ■ 基調講話 「子どもを地域の真ん中に。今、私たちができること」

日本福祉大学 社会福祉学部

野尻 紀恵 教授

### ■ シンポジウム

#### <シンポジスト>

ならわ三区子ども食堂サンクテーブル  
宮池小学校コミュニティスクール

澤田 恵子 さん  
前山 憲一 さん  
〔地(知)のマイスター〕

子どもの夜の居場所「あみり」基地  
日本福祉大学 社会福祉学部 4年

飯田 彩花 さん

#### <コーディネーター>

日本福祉大学 経済学部

加茂 浩晴 教授



基調講話では、社会福祉学部野尻紀恵教授が、子どもを取り巻く課題に触れ、地域の中で子どもを中心に据えたまちづくりに一人ひとりが参画していくことが包括的な課題解決につながることを全国の先進事例から紹介しました。シンポジウムでは、子ども食堂における地域住民の特技を生かした居場所づくりなど、知多半島の実践事例から学びました。

## ICTを活用した地域志向教育の実施

2020年度は、他の機関同様に新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を高等教育機関においても講じることとなり、一部を除くほとんどの講義で遠隔講義が実施されることになりました。他方で、ICT (Information and Communication Technology) の活用が進んだことで、遠隔講義における「地域志向教育」の手法も様々に開発されました。



オンラインフィールドワークの実践

社会福祉学部「総合演習」では、亀崎地区をリアルタイムで中継するオンラインフィールドワークが実施されました。この他にも様々な遠隔講義が各学部で実施されました。

## ふくし AWARD 2020 地域に根ざし、世界をみざす プレゼンテーションコンテスト

全学教育センターは、地域志向学習や、国際交流、ICTの活用を通して得られた学びを表現するプレゼンテーションコンテスト「ふくしAWARD」を開催しています。ふくしAWARD2020は、オンラインで開催され、46件の応募の中から「フィンランド教育視察研修を通して考える新たなふくしの形」をテーマに、自分なりの「ふくし」の考えを発表した子ども発達学部の酒徳 咲良さんが日本語部門で大賞を受賞しました。

また、英語部門は、国際福祉開発学部の留学生 Swastika Budhathoki さんらのグループ、学長特別賞は、国際福祉開発学部の市川 野乃さんがそれぞれ受賞しました。

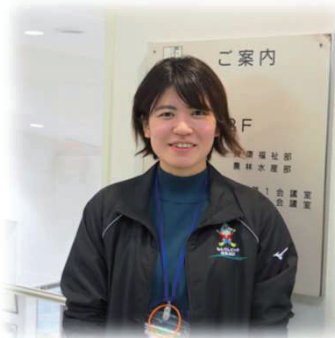
## 地域で活躍する「ふくし・マイスター」

日本福祉大学では、平成26（2014）年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」の採択を契機として、知多半島の関係自治体や課題解決に取り組む地域関係者とともに、「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」に取り組んでいます。これまでに3期2,049名の卒業生が「ふくし・マイスター」の修了証を授与されました。ここでは、卒業後それぞれの地域に関わりをもちながら、様々な地域課題に取り組んでいる卒業生を「ふくし・マイスター」として紹介します。



「ふくし・マイスター」とは、地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して「身をもって」地域課題の解決に取り組むことができる人のことです。

卒業までに地域志向科目10科目20単位以上修得  
+  
毎年度リフレクション（ふりかえり）を実施



### 郡上市 健康福祉部高齢福祉課 高平 侑佳さん

高齢福祉課で介護保険の仕事を担当しています。主に介護保険サービスの利用ために窓口にいらっしゃった方の話を伺い、施設のケアマネジャーや医療機関の相談員とやりとりをしながら、申請の受付をしています。

大学時代、高山でインターンシップに参加した際に、地域で支援をする体制とその大切さについて学びました。そのことを実際の現場で体験し、この仕事の重要性を感じています。実際にサービスを利用された方の声を伺う機会があり、自分の仕事が地域の方の支えにどのようにつながっているのかを実感できて嬉しかったです。

（子ども発達学部心理臨床学科2020年3月卒業）



郡上市公式 YouTube チャンネル（介護福祉課編）に高平さんが出演しています。

### 東海市 企画部企画政策課 水谷 勝利さん

3年生のゼミで「東海市大学連携まちづくり推進事業費補助金」を活用して東海市の観光振興のあり方の調査と情報発信（観光マップづくり）に取り組んだことが、就職への就職のきっかけです。

普段は、主に行政改革を推進する業務を行っています。そのほか、入庁した年が東海市制50周年に当り、所属する企画政策課が記念行事の所管をしていた関係で自分も行事の運営に携わりました。また、新型コロナウイルスの対応で、スピード感が求められる「特別定額給付金」の給付業務にあたり、市民の方からは、厳しいお言葉や感謝のお言葉もいただきました。入職2年のうちにこの二つの業務に携われたことは、貴重な経験になりました。

私にとって「ふくし・マイスター」は、社会に出てから地域で活躍するための自身への励みだと考えています。

（国際福祉開発学部国際福祉開発学科2019年3月卒業）



## 知多半島での学びを各地に ~ぎふCOC+事業推進コンソーシアムの取組~

## Career Development

日本福祉大学は、岐阜大学、中部学院大学、中部大学、名古屋学院大学と連携して、それぞれの強みを生かし、岐阜県内で活躍する人材の育成や産業の活性化を促進させ地方創生を図ることを目的に、岐阜県や県下の企業とコンソーシアムをつくり、共通プログラムなど各種取組を展開しています。

また、Uターン就職やキャリア開発の支援を目的として岐阜県や県下の事業所と協働した本学独自の企画も実施しています。これらの実践を全国各地のサテライト・オフィスと共有し、卒業生ネットワークを活かして、全国から集まる学生の就職ニーズにえています。



共通プログラムの「オータムスクールin羽島市」では、地場産業の繊維業や観光について連携校の学生が一緒に考えました。



## 「地域連携型研究助成制度」

「地域連携型研究助成制度」は、本学教員と地域の関係者がともに取り組む実践的研究を支援する本学独自の研究制度です。2020年度は、3件が採択され取り組まれました。

### 子どもを支援する活動者のネットワーク形成プロセスに関する研究

社会福祉学部野尻紀恵教授は、美浜町において制度事業だけでなく、住民や学生らの自主的な実践例も含めた子どもの支援ネットワークの形成プロセスに関する研究を行いました。「子どもの夜の居場所」実践研究として学生と「ふぁみ基地」を開設した2017年以降、少しずつ口コミで実践の広がりが見られるようになり、今では町内5か所に同様の子ども食堂や子どもを中心とした地域拠点が開設されています。2020年度は、活動者と行政が集って課題などを話し合う機会も持ちました。また、コロナ禍で活動ができない中、「ふぁみ基地」で人気メニューの簡単レシピを学生が作成しました。

#### 【その他の研究テーマ】

- 身寄りのない単身高齢者に対する「人生の最終段階における包括的支援機関」の構築についてーライフエンディング支援機関の構想ー
- 知多半島にいる定住外国人の現状と地域共生に向けての課題の可視化



人気のレシピは、「みはまデザイン」（特別編集号）に掲載されています。

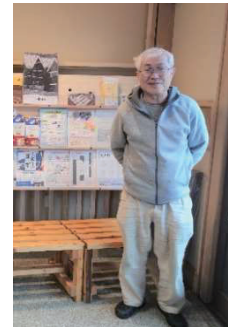


## 地（知）のマイスター・地（知）のフィールドとの連携

本学が進める地域連携教育や地域連携型研究に貢献いただける人材やフィールドを地（知）のマイスター&フィールドとして登録しています。大学との連携を通じてそれらの社会的発信や諸活動の活性化に宅立てていただくことを目的としています。現在、51名、43フィールドに登録いただいています。（2021年3月15日現在）

### 地（知）のマイスター 石川正喜さんの話

街かどサロンかめともの石川正喜さんは、亀崎のまちづくりをする中で、4年前から大学生の活動の受け入れをしています。その理由をこう語ってくれました。「古いまちには、若い人が似合うんです。新しいものと古いものが融合した時に、面白いことが起こる。それが楽しい。関わりを作って何かを達成することがどんなに今後役立つか。若い人達にはそういうことを知ってほしいんです。」と。学生達は頻りに街かどサロンかめとものに顔を出し、石川さんの意見を聞いたり、相談を持ち掛けたりします。思い通りに行くことばかりではありませんが、学生達は石川さんから叱咤激励を受けながら取り組みを続けています。「そういうことを知って世の中に出ていけば、えーじゃねーの」と石川さんは笑いながら語ってくれました。



## NPO法人との連携

日本福祉大学が所在する知多半島は、NPO法人の活動が活発な地域特性があり、従来より教育・研究等の分野でNPO法人との積極的な関わりを持ってきました。この度、愛知県が発行する『NPOと大学・企業連携促進事業調査結果報告書』の具体的事例（グッドプラクティス）として本学が関わる以下の事例3件（全11件中）が掲載されました。

- ◆地域の人が連携のプロデュースに重要な役割を果たした事例  
～NPO法人亀崎まちおこしの会 × 日本福祉大学～
- ◆大学の研究機関としての機能とNPOの専門性を生かした事例  
～NPO法人知多地域成年後見センター × 日本福祉大学～
- ◆大学教育と市民活動の連携のかたちを提示する事例  
～NPO法人地域福祉サポートちた × 日本福祉大学～

詳細は、あいちNPO交流プラザWEBサイト（右QRコード）よりご覧いただけます。



### 就活生とSDGs 企業を結ぶマッチング企画イベントを開催



国際福祉開発学部千頭ゼミでは、国内外での持続可能な地域社会の在り方について調査研究を続けています。2021年2月には一般社団法人SDGs Designと連携しながら、SDGsに取り組む企業10社とSDGsに関心のある学生を集めた就職マッチングイベントを開催しました。

千頭ゼミの学生たちは、主体的にイベントの企画や準備を行い、当日は県内の学生を中心に38名の大学生が参加しました。イベントの中では企業の担当者と参加学生が一緒にチームになってSDGsに関するゲームを行うなど、一般の就活イベントでは見られないような工夫もあり、満足度の高いイベントを開催することができました。

# 知多半島で広がる協働による持続可能なまちづくり

## 美浜町

### Good Health Farm ～想いがつなぐ地域の輪～

農業サークル「Good Health Farm」は、2018年度より地域資源である“農業”に着目して、人手不足の農家と、野菜不足の学生をつなぐ活動に取り組んでいます。

2019年度から継続して「美浜町まちづくりエンジョイぱらん交付金」事業に今年度も採択されましたが、本年度はコロナ禍で企画してきた「どろんこスポーツ大会」が中止となりました。

しかし、コロナ禍でありながらも、学生らは築いてきた関係性の中で、「何か自分たちにできないか」と小規模ながら“ボランティア”としてディスタンスや予防方法を守り収穫を手伝ってきました。

他方、農家の方は、おやつや農作物のお土産等をいつもより多く提供するなど、互いの思いやりが人のつながりを強くしたようです。指導する山本和恵助教は、「コロナ禍“だから”孤立するのではなく、コロナ禍“だからこそ”ふれあいの大切さを実感できたのでは」とふりかえりました。



美浜町まちづくりエンジョイぱらん交付金採択

## 半田市

### YouTubeでまちづくり動画を配信 ～亀崎建築ものづくり塾を通して～



健康科学部福祉工学科建築バリアフリー専修坂口ゼミのメンバーは、半田市亀崎地区のNPO法人亀崎町おこしの会のメンバー等と連携して、自分たちにできることはないかと、亀崎建築ものづくり塾の取組を動画にして

YouTubeで配信しています。

この取り組みは、コロナ禍で、住民同士や住民と大学生との交流機会が減る中で、オンライン上に活動動画を掲載することで、地区内外の人々がまちづくりについて情報を共有する「情報コモンズ」をつくり、時間と空間を超えた“新しい交流”をつくりだすことが狙いになっています。

また、学生たちは、岐阜大学と金沢工業大学が主催した地（知）の拠点大学等の「学生交流会」において、本取組を発表しました。今後は、これらの動画コンテンツを活用したイベントの企画を考えているそうです。

取組動画は、YouTubeで「亀崎建築ものづくり塾」で検索できます。

半田市市民活動助成金（ステップアップ部門）採択

## 東海市

### 「SDGsを市民の合言葉にしよう！」 プロジェクト

国際福祉開発学部千頭ゼミの学生が、「東海市大学連携まちづくり推進事業」補助金（※）の交付を受けて、市民の間でSDGsという言葉が日常生活でも語られ、未来のまちづくりにむけての合言葉となるようにしていきたいとこの一年活動してきました。

8種類のポスターを作成し、市役所・東海市芸術劇場・市内すべての市民館・公民館で掲示したり、ポスターを活用したアンケート調査やSDGsを意識した先進的な事業所へのヒアリング調査を行いました。また、学生目線からSDGsの目標をわかりやすく説明したリーフレットを作成して広く市民に配布しました。市民活動センターおよび東海キャンパス入り口には、SDGs立体ブロックを作成し、展示しています。詳細は、以下のQRコードからご覧いただけます。ポスター、パンフレットは他の自治体からも活用したいと引き合いが来ています。



Facebook



Instagram

※東海市大学連携まちづくり推進事業補助制度は、2017年度に創設されました。2020年度本学は、8事業が採択されました。



東海市大学連携まちづくり推進事業補助金採択

## 知多市

### 朝倉団地で本学留学生が 外国にルーツ持つ小学生の学習支援



本学の国際福祉開発学部2年生のラビアトゥル・ヒタヤさん（通称ピアさん）が、朝倉団地内の宿題教室「エスペランサ」（※）で、つつじが丘小学校に通う“外国にルーツを持つ子ども”の学習支援を行っています。

ピアさんは、昨年11月に開催された東海市地域大円卓会議でプレゼンターとして登壇。「日本とインドネシアとの架け橋になる」と題して、日本語学校をつくりたいという自らの夢を語りました。夢の実現に向けて日本語を実際に教える経験を積むことを目標に挙げており、この活動は、その一歩ともなる活動です。ピアさんは「算数の問題を解くときに、こういう解き方もあると逆に子どもから教わることもある。教え方は難しいけど、おもしろいし勉強になる。」と話してくれました。コロナ禍により、活動休止の時期もありましたが、緊急事態宣言が解除された3月から再開し、毎週月曜日に子どもたちに勉強を教えています。

※知多ビジョンプロジェクトの枠組みの中で、外国にルーツを持つ子どもたちに学習支援を行うボランティア団体です。



日本福祉大学 地域連携事業推進本部  
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35番6  
TEL 0569-87-2972 FAX 0569-87-2614（企画政策課）  
<http://www.n-fukushi.ac.jp/coc>

